

ザ・シンフォニエッタ

第31回演奏会

31st Concert



指揮
松元 宏康



ヴァイオリン
柴田 恵奈

2018年10月14日(日)

熊本県立劇場コンサートホール

開場13:45 開演14:30

ゲストコンサートミストレス 船津 真美子



撮影: ユーツークラシカルレコーディング

主催: ザ・シンフォニエッタ

後援: 熊本県教育委員会 熊本市教育委員会 熊本日日新聞社 RKK TKU KKT KAB FM791 FMK

公式ホームページ <http://www.the-sinfonietta.org/>

Profile



指揮 松元 宏康 *Hiroyasu Matsumoto*

東京都生まれ。幼少よりピアノ、エレクトーンを学び、洗足学園音楽大学ならびに同大学附属指揮研究所マスタークラスを経て、仙台フィルハーモニー管弦楽団副指揮者に就任し、プロ指揮者としてのキャリアをスタートさせた。これまでに仙台フィルハーモニー管弦楽団、山形交響楽団、群馬交響楽団、千葉交響楽団、広島交響楽団、日本センチュリー交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、オーケストラアンサンブル金沢、東京佼成ウインドオーケストラ、シェナウンドオーケストラなどへ定期的に客演し、年間のコンサート出演は70公演以上を数える。指揮法を秋山和慶、河地良智、増井信貴の各氏に、スコアリーディングを島田玲子氏に、クラリネットを松代晃明氏に師事する。現在、琉球フィルハーモニックオーケストラ正指揮者、ブリッツフィルハーモニックウインズ音楽監督、洗足学園音楽大学講師。(コンサートトイマジン所属・東京都在住)

ヴァイオリン 柴田 恵奈 *Ena Shibata*

熊本市出身。ヴァイオリンを廣瀬卓、木野雅之、細野京子の各氏に師事。室内楽を藤原浜雄、徳永二男、エマニュエル・ジラール、山口裕之、若林顕、小澤英世、久保田巧の各氏に師事。ピアノを藤本史子、ソルフェージュを篠原恵理、春日信子の各氏に師事。イヴリー・ギトリス、ハビブ・カヤレイ、エンリコ・オノフリ各マスタークラスを受講。熊本、東京、神奈川、京都を中心にリサイタル、室内楽コンサートをおこなうほか、スコットランドDG地球救援音楽祭、みやこじま青少年国際音楽祭に出演。

2009年、第2回国際ジュニア音楽コンクールin千葉にてサラサーテ賞受賞。2012年、木野雅之マスタークリニックin合歓の郷にて第1位。2016年5月、紀尾井ホールにおいて「熊本地震 復興支援チャリティ・ガラコンサート」に出演。同年10月、「中丸三千繪スペシャルリサイタル」に出演。2017年3月、第11回セシリア国際音楽コンクール第4位。同年9月、フィルハーモニックオーケストラ長崎定期演奏会にてソリストを務めた。同年10月、第18回大阪国際音楽コンクール入選。第2回スペイン音楽国際コンクールにおいてスペイン大使賞受賞。

ルーテル学院中学、桐朋女子高等学校音楽科を経て、桐朋学園大学を本年3月に卒業。



ゲストコンサートミストレス 船津 真美子 *Mamiko Funatsu*

相愛大学音楽学部卒業、研究生修了。第6回日本クラシック音楽コンクール大阪大会奨励賞、全国大会入選。グレゴール・ブーロ、里屋智佳子、小谷公子、木野雅之の各氏に師事。ベルリンにてレオン・シュピーラー氏にレッスンを受ける。大阪交響楽団、名古屋フィルハーモニー交響楽団ほか、日本各地の主要オーケストラで、オーケストラ客演奏者として活動。2016年まで在住したタイでは、バンコク交響楽団にてオーケストラ奏者として演奏、自身のリサイタルも開催。第4回熊本アートフェスティヴォ!聴衆賞受賞。必由館高校非常勤講師、平成音楽大学演奏員。日本演奏連盟会員。

管弦楽 ザ・シンフォニエッタ *The Sinfonietta*

1986年に結成された小編成のアマチュア・オーケストラ。ハイドン、モーツアルト、ベートーヴェンなどの古典派の曲を中心としながら、ロマン派、近代の曲なども演奏している。アンサンブルを楽しむため、小編成(50人以下)の特性を活かした選曲、演奏活動をしている。

これまでに共演した主な音楽家は、指揮者では本名徹二、山下一史、岩村力、藤崎凡、久保田悠太香、船曳圭一郎、萩原勇一、藤崎奈

美などの各氏、ソリストでは安永徹(Vn)、堀正文(Vn)、篠崎史紀(Vn)、小野富士(Vla)、O.ボルヴィツキー(Vc)、小林道夫(Cemb)、若林顕(Pf)、合志知子(Pf)、吉田秀晃(Pf)、青柳晋(Pf)、鈴木理恵子(Vn)、龍野しづく(Vc)、田尻大喜(Tp)などの各氏ですばらしい指導者・共演者に恵まれ充実した活動をしている。

2011年10月に若林顕氏の弾き振りでピアノ協奏曲3曲を一夜で演奏。また2012年9月には特別演奏会として歌劇「カルメン」演奏会形式に挑戦。山下一史氏指揮のもと県内外の歌手の方々と共に演。合唱団も一般から募集し、初のオペラ演奏会は好評を得た。2017年には、ソリストに日本を代表するヴァイオリニストの鈴木理恵子氏とNHK交響楽団首席チェリスト藤森亮一氏を招き、名曲と言われながら実演ではあまり聞く事のないブルームスのドッペルコンチェルトを共演。第30回の節目にふさわしい演奏会となった。

ザ・シンフォニエッタはこれまでに培われた丁寧な音楽作りを心掛けながら、更なる歩みを進めている。



撮影:ユーチューブ・クラシカルレコード

Program

モーツアルト／歌劇「劇場支配人」序曲 K.486

メンデルスゾーン／ヴァイオリン協奏曲 ホ短調 作品64

第1楽章 Allegro molto appassionato

第2楽章 Andante

第3楽章 Allegretto non troppo - Allegro molto vivace

～ 休 憩 ～

ベートーヴェン／交響曲第2番 ニ長調 作品36

第1楽章 Adagio molto - Allegro con brio

第2楽章 Larghetto

第3楽章 Scherzo Allegro

第4楽章 Allegro molto

指揮：松元 宏康

ヴァイオリン独奏：柴田 恵奈

ゲストコンサートミストレス：船津 真美子

ごあいさつ

本日は、ザ・シンフォニエッタ第31回演奏会にお越しいただき誠にありがとうございます。

"Shinfonietta"とは「小さいオーケストラ」という意味です。1986年の創立以来、主に小編成の楽曲に取り組み、時間はかかるても良い演奏会となるようにじっくり練習することを心がけて参りました。演奏会の度に良い楽曲、良い音楽家、そして良いメンバーに恵まれ、また会場のお客様と豊かな時間を共有できることは何よりの喜びと感じています。これまでご支援いただいた皆様に厚く御礼申し上げます。

今回は古典派の作品をプログラムに選びました。18世紀後半から19世紀半ばに作られた3曲には、いずれも美しさ、躍動感、場面によってはエキセントリックなど様々な表現が描かれています。譜面に並ぶ音符を読み解き演奏することは、技術的にも表現的にも大変難しいですが、練習のたびに楽曲の魅力を感じることもできました。

指揮者の松元宏康氏とは初共演となります。日本各地のオーケストラを指揮し、洗足学園音楽大学にて教鞭を取られている松元氏は、迷えるメンバーをより楽しくてエキサイティングな音楽創りへと導いて下さいました。松元氏の情熱的かつ建設的なご指導で、練習時に「できる！」を体感させていただきました。

ヴァイオリン協奏曲のソリストには熊本出身の柴田恵奈氏をお迎えしました。その小さな身体からは想像できない程の豊かな表現と美しい音色、的確な技巧で、この楽曲の魅力を充分に聴かせてもらえることと思います。

コンサートミストレスには船津真美子氏をお招きし、オーケストラの牽引役を担っていただけることは大変心強いです。

本日はこの素敵な共演者の方々とザ・シンフォニエッタらしい演奏をお届け出来ればと思っております。会場の皆様には最後までご堪能いただければ幸いです。

ザ・シンフォニエッタ代表 クープス友美

曲目解説に代えて～指揮者松元さんとソリスト柴田さんを囲んでの座談会～

● ● ● ● ●

●モーツアルト／歌劇「劇場支配人」序曲 K.486

——なぜ今回、一曲目にこの曲を選曲されたのですか？

松元さん：指揮のお話をいただいたときに既にメンデルスゾーンとベートーヴェンが決まっていたので、さらっと聴けるこの曲を選びました。

——スピード感ありますよね、風のような。

松元さん：例えば家に人を呼んでね、前菜からそんなに気合い入れたら大変じゃないですか！だから「あー、おいしかったね。次は何？」って持って行ける導入としてこの曲を提案しました。

——そういう意味では今回のプログラムはいい流れになっていますよね。

松元さん：そうですね。マニアも惹きつけて、知らない人もなんとなく聴けて。劇場支配人って4分くらいで終わるから、クラシック音楽を日頃聴かない人はこう思うと思います。「ああ、良かった。これぐらいで終わつた～！（笑）」。そしてなんとか一曲目を乗り越えたら、若いヴァイオリニストが出てきて音楽もキャッチャーで。それから3曲目のメインディッシュが登場する、という流れです。美しいプログラムですよね。

●メンデルスゾーン／ヴァイオリン協奏曲 ホ短調 作品64

——やはりこの曲の聴きどころは？

松元さん：なんといっても（柴田）恵奈さんのソロですよ。すごく清潔感があつてしばらくしてます。よく勉強もされている。この曲は小学生でも弾くことがあります、音楽的にどう昇華していくのかというのは逆に難しいですね。そこをどう彼女の音楽として伝えられるかというところが聴きどころじゃないでしょうか。

——ではこの曲の魅力をお願いします。

松元さん：（開口一番）いい曲!!

——（笑）。やっぱり名曲といわれる理由は、美しすぎるメロディーでしょうか？

松元さん：まず、わかりやすいですね、展開が。1楽章はもやがかったような出だしからロマンチックにソロが始まって、湧き出るようなメロディーが楽器を代えて交互に出たり、同時に出たり、ソロとの掛け合いかつたり、めまぐるしく展開していく。2楽章は完全に歌の世界。無言歌集のようなものですね。3楽章ではさらにリズミカルに色々な要素をソロパートが受け持ったり、オーケストラパートが演奏したりします。

——ところで（柴田）恵奈さんはどの楽章が好きですか？

柴田さん：…2楽章。

松元さん：やっぱり2楽章だよな～。でもだからといって2楽章がこの曲の最大の聴き所かつて言うと、そういうじゃないよね。前後があるから2楽章が生きるんです。

——（柴田）恵奈さん、先生からはどうなことをレッスンで言われましたか？

柴田さん：「もっと繊細に演奏しなさい」と言われました。

松元さん：難しいね。繊細だけど1800人に入るホールで響かせなくてはならないからね。

——この曲は一応、楽章はありますが、実際には1楽章と2楽章はつながっているし、3楽章も入り口が変わっていますよね。どうしてなんでしょうか？

松元さん：思ったままに最初から最後まで一気に書いているからでしょうね。それはメロディーメーカーに多いスタイルかも。一筆書きのようなものでしょうね。

●ベートーヴェン／交響曲第2番 ニ長調 作品36

——ベートーヴェンの交響曲第2番はとてもよい曲なのに、比較的演奏される機会が少ないのでなぜでしょうか？

松元さん：単純にインパクトのある曲に挟まれているからだと思います。1番は最初に書いたバイタリティーあふれる交響曲で、3番の交響曲は古典派からロマン派へ移るきっかけになった曲なんですよ。そんな1番と3番の間にはさまれた曲なので目立ちづらい。でも実は2番は1番よりもさらにアイディアを練って掘下げていった面白い曲なんです。2番を書いているときに耳の不調を感じ始めて、彼はその後に遺書として伝えられる有名な手紙を書きます。ちなみに、これはハイリゲンシュタットの遺書と呼ばれる手紙ですが、これは遺書ではありません。で、その時期はまさに彼にとって劇的な変化の時代なんですよ。その夜明け前みたいな時期にかかるのがこの2番なんです。

——ところで練習の時、「モーツアルトやメンデルスゾーンはメロディーメーカーで天才だったけど、ベートーヴェンは音楽を構築していく才能がすごかった」と話されたのが印象的だったんですけども。

松元さん：人は作曲家っていうと、天から何か降ってきてサッと書いてしまうイメージがあるかもしれないけれど、それは一部の作曲家。ベートーヴェンは全然メロディーメーカーではないんです。ある素材を構築していくのが天才的にうまかった。この曲ほど、旋律的なテーマが出てこないで、短いテーマを発展的に作っていった作品は珍しいかもしれないですね。モチーフだけを使って曲を書いてしまう。これが彼のすごいところですね。

とは言っても、フランス革命を生み出した激動の時代がなければ彼の作曲のエネルギー・作曲の経緯もなかった。そういう意味では「ベートーヴェンはその時代が生み出した」という言い方も間違いく出来ますよね。また、人は誰しも才能に恵まれてたりラッキーな境遇にいるわけではなくて、病気もすれば、つらいこともある。ベートーヴェンも私たちと同じ一人の人間として実際に生きていたわけです。でも彼がそれを努力して克服したところに音楽を通して共感を得るから、みんなベートーヴェンが好きなのではないでしょうか。

——この曲の特徴を教えて下さい。

松元さん：全ての楽章において斬新。例えば1楽章の冒頭で、いきなりダブルリード4人のアンサンブルで始まる曲など当時ありませんでしたし、序奏が1番に比べてとても長くなりました。そして本来ヴァイオリンで奏でるであろう序奏のあと、主部の旋律は、ヴィオラとチェロが担当するんです。当時の人は相当びっくりしたと思います。2楽章ではクラリネットがメロディー楽器として、あんなに長く旋律を吹くというのは革新的なことでした。

——松元さんは3楽章、スケルツォの楽章が大好きと伺ったんですけど。

松元さん：交響曲というフォーマットを発展させたのはハイドン。そしてベートーヴェンはこのフォーマットを広げた人なんです。

交響曲の3楽章はそれまではメヌエットという舞曲のスタイルでした。例えばベートーヴェンも交響曲第1番の3楽章はメヌエットと書いているけれど、テンポは全然メヌエットじゃない。要するに踊りから派生した音楽をスケルツォという新しいジャンルにしてしまったんです。3拍子という枠の中で少ないピースを使ってパズルを展開していくというスタイルを構築しました。

これは僕の勝手な憶測なんですけど、貴族が古き良き時代にメヌエットを優雅に楽しむという習慣はきっと、民衆が「自由を勝ち取るんだ！」という時代には失われていったんじゃないかなと思うんですよ。ベートーヴェンが感情を投影する作品を書くときに、そのような優雅なものに収まらなくなっていたんじゃないでしょうか。これはあくまで僕の想像ですけれど。

——そのスケルツォである3楽章はロックのようだともおっしゃっていましたが。

松元さん：結局ロックって何かというと、反体制的な、既存のものに対して「そうじやないだろう」という精神。ベートーヴェンは民衆が自由を獲得するという世の中の流れに敏感だった人。だから舞曲だったメヌエットがビートに訴えかける音楽に進化していったのは自然の流れだったように個人的には感じています。日本の幕末の感覚にも近いのではないかと思うんです。

——最後に、演奏会においてになられたお客様に何かメッセージをお願いします。

松元さん：このオーケストラで演奏しているメンバーは、主婦だったり、サラリーマンだったり、普段はお客様と変わらない人達です。そのような方々が音楽が好きだという熱意で集まって、休みの日に何時間も練習して、今日大曲を3曲も演奏する。お客様には、そんなメンバーが「色々な場面で何を生み出して見せてくれるか」というところをしっかりと聴き届けていただきたいと思います。

柴田さん：メンデルスゾーンのヴァイオリン協奏曲はとても有名な曲で、クラシック音楽に馴染みがない方でも、曲の冒頭だけでも聴いたことがあるかもしれません。今回は全楽章聴いていただき、メンデルスゾーンの特徴であるメロディーの美しさを楽しんでいただけたらと思います。

この夏に受けたドイツでのセミナーでこの曲に取り組み、メンデルスゾーンの素晴らしさがさらに伝わるよう工夫してみました。聴いたことがある方にも新鮮なメンデルスゾーンになるような演奏をめざします。

——本日はたくさんのお話をありがとうございました。

Members

| | | | |
|---------------|--------|--------|-------------|
| ゲストコンサートミストレス | ヴィオラ | フルート | ホルン |
| 船津真美子 | 和泉希代子 | 大林淳子 | クーパス 友美 |
| | 浦中 有紀 | 猿渡みか | トウメイ ジョゼフ |
| 1stヴァイオリン | 小坂ゆかり | | |
| 宇土美紀 | 佐藤 寛子※ | | |
| 岡田江身子 | 龍野珠美※ | オーボエ | トランペット |
| 岡本侑子 | 毎床一寿 | 橋 徹 | 福島敏和 |
| 境 健太郎※ | | 松本聰子 | クーパス ロジャー |
| 柴田恵奈※ | | | |
| 高橋弘行 | チェロ | | |
| 日夏美紀 | 打越山修多※ | クラリネット | ティンパニ |
| 吉川潔 | 齊藤正孝 | 福島由貴 | 釣谷智美※ |
| | 蓮尾友※ | 府高明子 | |
| | 平塚ゆり | | |
| 2ndヴァイオリン | 馬原ひろみ | | トレーナー |
| 伊藤大輔 | 森山誠一 | ファゴット | 蓮沼昇 |
| 岡部造史 | | 上田宏 | 山本俊之 |
| 白井千尋 | | 柴田義浩 | |
| 田中唱※ | コントラバス | | ※は賛助出演(敬称略) |
| 月田理代 | 岡田尚子 | | |
| 富奥史子 | 田中まき※ | | |
| 廣坂薰 | 歳田和彦 | | |
| 星乃三友紀 | | | |

お知らせとお願い

♪ 団員募集のお知らせ

ザ・シンフォニエッタでは、現在団員を募集しております。
ホームページ <http://www.the-sinfonietta.org/>
団員募集のページよりお問い合わせ下さい。

♪ 主催者からのお願い

- ホール内での喫煙、飲食はかたく禁じられております。
- 携帯電話等の電源、時計のアラームはお切りください。
- 小学生未満の方のご入場はご遠慮ください。
また、お子様がお静かにできない場合は、「親子室」をご利用ください。
- 演奏が始まりましたら、ホールの移動、座席の移動をお控えください。

♪ 次回演奏会のお知らせ

日時：2019年10月6日（日）
場所：熊本県立劇場コンサートホール
曲目：ハイドン/歌劇「月の世界」序曲
モーツアルト/交響曲第31番「パリ」
ハイドン/交響曲第104番「ロンドン」
指揮：松元 宏康

本日は、ザ・シンフォニエッタ第31回演奏会にご来場いただきまして、誠にありがとうございました。
よろしければ、アンケートにご住所、ご氏名をお書きください。第32回演奏会のご案内をお送りいたします。